

6月13日（木）～14日（金）に熊本城ホールで第60回 日本肝臓学会総会が開催されました。

当科より以下の11演題の発表がありました。

- ・寺井教授：ワークショップ 3 肝臓リハビリテーション：サルコペニアと栄養・運動介入の現状と課題の特別発言、その他司会など
- ・上村博輝講師：高齢肝硬変患者の睡眠障害の特徴
- ・五十嵐崇徳先生：自己免疫性肝炎患者における治療反応不良症例の検討
- ・木村究先生：Portal biliopathy により胆管消失症候群を来したと考えられる一例
- ・土屋准教授：S-005151 の慢性肝疾患患者を対象にした第2相医師主導治験での線維化改善と肝機能改善効果の検証
- ・三井田先生：肝硬変患者における経時的な筋量減衰に関わる因子の検討
- ・魚沼基幹病院消化器内科 須田剛士特任教授：非コード RNA の発現抑制は肝細胞がんの多段階発がんにおける早期イベントである
- ・総合診療学講座 上村顕也教授：メダカを用いた脂肪性肝疾患の多臓器合併症の検討
- ・古山先生：急性肝障害における高カルシウム血症は成人 T 細胞白血病を疑う有用な所見である
- ・坂牧講師：顕性肝性脳症の発症予測における、呼気中水素・メタン分析による SIBO 診断の有用性の検討
- ・阿部寛幸助教：ダサチニブ及びケルセチンは老化細胞除去剤として MASH メダカモデルにおいて老化細胞を減少させ病態改善に寄与する

